

平成23年度 事業計画

．基本方針

我が国の「食」を取りまく状況は、飽食の時代と言われる一方で、核家族化の進展や単身世帯の増加など生活形態が変化するなかで、食に関する知識を継承する機会の減少等を背景に、栄養バランスの偏り・不規則な食事・生活習慣病の増加などの食生活の乱れが指摘されている。

このようななかで、平成22年3月に決定された「食料・農業・農村基本計画」のなかで、「日本型食生活の推進をはじめ、食生活の改善や食の安全を確保するためには、日常の食生活や農林水産物・食品の生産・流通現場における体験等を通じて、食のあり方を考えることが重要であることから、引き続き食育を推進する」ことを提起している。

このような状況に対し、酪農生産や教育の現場でそれぞれに、食に関する活動を実践している農業者と教育関係者が連携して、牧場や農場などにおける体験学習の実践を通じて、子ども達の「食といのちの学び」を支援するとともに、農業生産現場の理解促進による食育の推進及び「日本型食生活」の普及・拡大に寄与することを目的とする。

．事業方針

1．牧場などでの農業体験学習の推進

子ども達の「食といのちの学び」の支援及び酪農生産現場への理解促進をはかるため、牧場での体験活動や学校等の教育機関における出前型の酪農体験学習を推進する。

2．食育推進に関する研修会の開催

酪農生産現場での実体験や生産に関する仕組みを理解することにより、いのちの尊さを学ぶとともに、牛乳や酪農に対する理解を深め、食（食べ物）を大切に作る心を育み、食を支えてくれている人々の心を伝え、食育の推進をはかるため、酪農家及び教育関係者を対象とした研修会を開催する。

3．教材の開発に及び情報・ノウハウの提供に関する事業

牧場での体験活動や学校等での出前型体験活動の際に活用するための、現場の実態に即した教材を開発するとともに、ホームページや機関誌等で優良事例や個性的な事例などを紹介し、広く情報提供を行う。